



海老名ネットが目指すもの

神奈川県ネットワーク運動海老名（海老名ネット）の市議会議員としてつつ木みゆき議員は2019年11月より活動してきましたが2月末に退会し、海老名ネットの議員は不在となりました。

海老名ネットは地域政党として、生活していて困っていることや欲しい支援などをみんなで話し合い、解決するために活動してきました。当時は、まだ珍しかった家事介護・移動支援・子育て支援などの福祉サービスを市民事業として創ってきました。今後も市民が必要としている支援や要望は議員や行政にお任せではなく、自分のこととしてみんなで話し合い、市民の声が反映したまちづくりを目指していきます。



自由に外出できる 移動支援事業へ

誰もが自分らしく地域で生きていくためには、自由に出かけられることが必要です。「バス停への坂道で外出がづらい。」の声に、外出に関するアンケートをとり108の回答を得ました。それを基に福祉政策課と話し合いの場を持ち、意見をまとめ市長へ「海老名市移動支援事業に関する要望書」を提出しました。

- ① 予約制の乗合交通(デマンド交通)を継続性の観点から公共事業として取り組むこと。
- ② コミバス・ぬくもり号を利用しやすい運転間隔・料金にする。
- ③ 運転免許証の返納をやすくするために、バス・タクシーの割引券を発行する。
- ④ コミバス上今泉コースの海老名駅停留所に屋根とベンチを設置する。
- ⑤ ベビーカー・車椅子などが通行しやすい歩道にする。
- ⑥ 2022年度から取り組んでいる「高齢者等移動支援福祉人材育成事業」は、講座を受けた方たちが地域の移動支援に携われるように、新たなNPO法人の設立を市が支援する。

2023年秋にはコミバス・ぬくもり号・さくら号を合わせた(仮)YOUバスの実証運行が予定されています。本格運行の前には多くの市民の声を取り入れることが必要です。(共生部会 西田)

「あったらいいなお出かけ支援アンケート」の結果をまちづくりレポート125号に掲載しました。

今、伝えたい「平和」!

4/15(土)海老名市文化会館120サロンで80名を超える来場者を迎え第16回「平和ってなんだろう?」～戦争体験を聞いて考えよう～を開催。「沖縄で戦争があったの?」腹話術のふくちゃん人形が聞くと柳川たづ江さんから、住民の1/4が戦死した沖縄戦のむごさが語られた。



ふくちゃん人形と柳川たづ江さん

父、日比野勝廣は毎晩のように「やられた」と顔に汗してうなされた。そして、長期休みのたびに沖縄へ。5女のたづ江さんは子どものころに不思議に思っていたが、それは糸数アブチラガマで九死に一生を得た元日本兵のPTSD(心的外傷後ストレス障害)だった。戦場へ赴く前と後の父の写真は顔つきが変わっていた。「兵士は鉄砲を持って、殺し合いをしなくてはいけなかった。」戦争は人間性を否定し、戦場の体験は体の奥深く記憶に残り疼き、死ぬまで解放されない。

日比野勝廣さんの生前の願い「子どもたちは、戦争のない平和な時代に生まれ、育ててほしい。」は私たちの願い。戦後78年経ち、祖父母も戦後生まれの子育て世代は、毎日の生活で?と思いつつも足を止めて考えることが難しい。子育て世代と共催の2年目の今年は企画から共に考えた。

親子一緒に経験で、「平和」を話し合えるように、ピアノ演奏「自由への賛歌」、ピアノをBGMに絵本「ホロコーストを生き抜いた6人の子どもたち」の朗読と5感を刺激した。「せんそうのゲームは楽しくてもほんとうのせんそうはいけない。」小3の感想文。

歴史を知ることは、未来につながる。ロシアのウクライナ侵攻で戦争



「ホロコーストを生き抜いた6人の子どもたち」朗読とピアノ



聴き入る子供たち

が具体的になってきた今、「新たな戦前」にしないよう、史実に向き合い「平和な未来を子ども達へ」パトタッチ!(市民発・平和の会 西田)

福島を忘れない



あつぎ市民発電所見学

2011年3月11日に福島で起きた原発事故の記憶をまだ拭い去ることは出来ません。自分たちで責任を持って使うことが出来る電力を作り出している「あつぎ市民発電所」へ1月17日に見学に行きました。ソーラーシェアリングという言葉は以前から知ってはいたのですが、見るのは初めてです。太陽のエネルギーを農業と発電に利用することは、狭い面積の日本にとってとても有効な方法です。野菜の育成に太陽が100%必要なく、逆に太陽光パネルがあることで夏の強い日差しを遮り、野菜の成長にも良い効果を与えます。この農場ではパネルの間隔、光の入る角度などを変えて最良の方法を求める実験をしています。野菜もじゃがいも、里芋などを有機栽培して学校給食に使われたこともあります。子どもたちが環境への関心を持つきっかけを作っています。

また、この団体はあつぎ気候市民会議の開催を準備しています。これは市民が参加して脱炭素社会を目指し、豊かで暮らしやすい厚木の未来を創ることを目的としています。海老名市でも環境に関心がある人達は大勢います。海老名でも気候市民会議が開催されたいな！自分達でやるしかないのか、悩ましいところです。

(環境部会 神崎)

空間放射線量測定

2011年3月11日に起こった福島原発事故をきっかけに、毎年子どもたちが集まりそうな場所の空間放射線量測定を続けてきました。

あれから12年を経過し、2014年に測定したことのある海老名市消防署南分署に保管してある「市内の比較的放射線量が高めだった土」のことが気になり再度測定をお願いしました。保管庫内の測定結果は2014年の時とほとんど同じでした。

原発事故後の汚染土や汚染水の問題は、処分方法の方向性は国から出されているものの納得いくものではありません。2011年に福島原発事故が起こった事は、54基もの原発を持つ日本で、今後も起こり得る事として考え、原発の再稼働・運転期間延長・新設は許せません。

(環境部会 高林)

空間放射線量率測定結果 2023年3月15日(晴れ)

単位:マイクロシーベルト/時

測定場所	床から50cm	床から1m
保管庫内	0.081	0.067
保管庫シャッター前	0.043	0.044
保管庫シャッター西側	0.047	0.045
保管庫シャッター南側	0.050	0.050
南側の災害用土のう前	0.042	0.036

2014年11月に行った測定結果

保管庫内	0.064	0.072
保管庫シャッター前	0.050	0.048

基準値は0.23
市環境みどり課の訪問測定を活用しています。



消防署南分署に保管されている土のう(2011年秋に市内公共施設の土から採取したもの)

第24回 永池川川歩き

5月6日(土)

市内を水源とする唯一の川「永池川」でジャブジャブ川歩き!

「NPO Dream eggs ゆめたま」の先生の指導のもと、水生生物の観察をし、ゴミを拾い歩きました。中流でよく見られるオイカワ(コイ科)、ヨシノボリ(ハゼ科)、メダカなどの魚7種やヤゴ、カゲロウ、フロリダミズヨコエビ、アメリカザリガニなどの水生生物がいて、普段何気なく見ていた川にも、たくさんの生き物が住んでいることを知りました。

なのになのに、投げ捨てられていた大量のゴミ!!

橋の下で拾ったゴミを上からロープで引き上げました。

川歩き後の観察会での先生お話で、外来種がいることで在来種が生きることが出来る場合もあり、外来種=悪、ではなく、地域の環境にもよってさまざまなバランスがあるということが印象的でした。子どもたちに多様性のある美しい景色を残していきたいです。

(参加者:樋渡)



おしらせ

中新田の事務所を6月いっぱいまで閉鎖し、新しい事務所を探しています。

編集後記

近年極端な気象が多くなった。これまでの暮らし方が招いている事とわかってはいるが、激しい寒暖差は体にこたえる。偏った降雨で洪水や水不足になっても困る。持続可能な社会を目指して環境にやさしい活動に取り組んでもすぐには改善しない。せめて今年の梅雨は平年並みであってほしい。(市川)

*生き活きまちづくりレポートはボランティアが配布しています。お手伝いしていただける方を募集しています。事務所までご連絡ください。